

教科「農業」

科目名	総合実習 野菜			単位数	3 単位
学科名	生物生産	学 年	2 学年	予定時数	105 時間
1 学習目標					
野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。野菜の活用、販売について探究する。					
2 指導及び評価の観点					
生徒の能力、意欲、関心が多様であることから基礎的な知識技術の習得と実践的な態度と能力を育成する。					
① 野菜栽培の知識および技能の基礎・基本を身につけたか。					
② 野菜栽培に対する意欲を高めることが出来たか					
③ 料理・加工など野菜と関連する分野についても触れ、社会的な視野を広めることが出来たか					
3 学 習 内 容					
【1 学期】	1 ネギ、ジャガイモ、トウモロコシの栽培計画 (1) ネギ、ジャガイモ、トウモロコシの生態的特性 (2) 栽培計画の作成 2 ネギ、ジャガイモ、トウモロコシの栽培及び観察 (1) 品種と作型 (2) 圃場の準備 (3) 播種 (4) 定植 (5) 定植後の管理 ①追肥・土寄せ				4 5 時間
【2 学期】	2 ネギ、ジャガイモ、トウモロコシの栽培及び観察 (6) 病虫害防除 (7) 収穫と出荷・まとめ 3 F F J (日本学校農業クラブ) (農業鑑定・意見・プロジェクト) 4 圃場野菜、アスパラガスの管理				7 5 時間
【3 学期】	5 野菜の育苗 (1) 育苗の目的 (2) 育苗の施設と資材 (3) 床土 (4) 種子とたねまき (5) 発芽後の管理と生理 (6) その他の育苗 キュウリ・トマトの育苗				2 0 時間
教科書	野菜(実教)				
副教材	食の検定3級テキスト(発行:食の学問体系化研究所) リーダーシップ 日本農業技術検定 傾向と対策(全国農業高等学校長協会)				
備 考	学校農業クラブ上級位検定、食の検定3級				

評 価 規 準				
評価項目・対象	知識・技術	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学 習 姿 勢	○	○	◎	3 5 %
提 出 物	○	○	◎	1 5 %
研究レポート		◎	○	2 0 %
定 期 考 査	◎	○		3 0 %
評価の重点	【知識・技術】基本的な作業・管理が確実にできるか。 野菜栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。 【思考・判断・表現】栽培実習において、行う作業の意味を考え、野菜の生育にとってよりよい方法を選択できるか 【学びに向かう力】野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。			

教科「農業」

科目名	野菜			単位数	3 単位
学科名	生物生産	学 年	2 学年	予定時数	105 時間
1 学習目標					
野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。野菜の活用、販売について探究する。					
2 指導及び評価の観点					
生徒の能力、意欲、関心が多様であることから基礎的な知識技術の習得と実践的な態度と能力を育成する。					
① 野菜栽培の知識および技能の基礎・基本を身につけたか。					
② 野菜栽培に対する意欲を高めることが出来たか					
③ 料理・加工など野菜と関連する分野についても触れ、社会的な視野を広めることが出来たか					
3 学 習 内 容					
【1 学期】	1 ネギ、ジャガイモ、トウモロコシの栽培計画 (1) ネギ、ジャガイモ、トウモロコシの生態的特性 (2) 栽培計画の作成 2 ネギ、ジャガイモ、トウモロコシの栽培及び観察 (1) 品種と作型 (2) 圃場の準備 (3) 播種 (4) 定植 (5) 定植後の管理 ①追肥・土寄せ				4 5 時間
【2 学期】	2 ネギ、ジャガイモ、トウモロコシの栽培及び観察 (6) 病虫害防除 (7) 収穫と出荷・まとめ 3 F F J (日本学校農業クラブ) (農業鑑定・意見・プロジェクト) 4 圃場野菜、アスパラガスの管理				7 5 時間
【3 学期】	5 野菜の栽培環境と生育調整 (1) 光環境とその調整 (2) 温度環境とその調節 (3) 湿度環境とその調節 (4) 風・ガス環境とその調節 (5) 地下部の環境とその調節 6 人工環境における栽培技術				2 0 時間
教科書	野菜(実教)				
副教材	食の検定3級テキスト(発行:食の学問体系化研究所) リーダーシップ 日本農業技術検定 傾向と対策(全国農業高等学校長協会)				
備 考	学校農業クラブ上級位検定、食の検定3級 時間割外総合実習1単位を含む				

評 価 規 準				
評価項目・対象	知識・技術	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学 習 姿 勢	○	○	◎	3 5 %
提 出 物	○	○	◎	1 5 %
研究レポート		◎	○	2 0 %
定 期 考 査	◎	○		3 0 %
評価の重点	【知識・技術】基本的な作業・管理が確実にできるか。 野菜栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。 【思考・判断・表現】栽培実習において、行う作業の意味を考え、野菜の生育にとってよりよい方法を選択できるか 【学びに向かう力】野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。			

教科「農業」

科目名	総合実習 野菜			単位数	3 単位
学科名	生物生産	学 年	3 学年	予定時数	105 時間
1 学習目標					
野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。					
2 指導及び評価の観点					
① 野菜栽培の基本である生育特性を理解しその環境をイメージしたり、病気・害虫の対策を考えらえる					
② 環境にやさしい野菜栽培の実践を協同して行えているか					
③ 野菜の活用方法の提案と探究					
3 学 習 内 容					
【1学期】	1 果菜類、葉茎菜類の栽培計画 (1) トマト、キュウリ、レタスの生態的特性 ①栽培計画の作成 ②播種 ③育苗				4 5 時間
【2学期】	2 果菜類、葉茎菜類、根菜類の栽培及び活用 (1) 品種と作型 (2) 圃場の準備 (3) 定植後の管理 (4) 病虫害防除 (5) 収穫と出荷・まとめ (6) 販売・活用・・・交流活動				7 5 時間
【3学期】	3 野菜の特徴 (1) 生活と野菜 (2) 野菜の種類と分類 (3) 野菜園芸の動向 (4) 長野県の野菜園芸 (5) 交流活動のまとめ				2 0 時間
教科書	野菜（実教）				
副教材	食の検定3級テキスト（発行：食の学問体系化研究所） リーダーシップ 日本農業技術検定 傾向と対策（全国農業高等学校長協会）				
備 考					

評 価 規 準				
評価項目・対象	知識・技術	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学 習 姿 勢	○	○	◎	3 0 %
提 出 物	○	○	◎	2 0 %
研究レポート		◎	○	3 0 %
定 期 考 査	◎	○		2 0 %
評価の重点	<p>【知識・技術】 基本的な作業・管理が確実にできるか。 野菜栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。</p> <p>【思考・判断・表現】 野菜の生育にとってよりよい方法を選択できるか 野菜活用を探究し、協働できたか</p> <p>【学びに向かう力】 野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。</p>			

教科「農業」

科目名	課題研究 野菜			単位数	3 単位
学科名	生物生産	学 年	3 学年	予定時数	1 0 5 時間
1 学習目標					
学習した知識と技術の深化、統合化を図り、より専門性を高める。					
2 指導及び評価の観点					
① 主体的に課題を設定して計画を立て、課題を解決することにより、自発的・創造的な態度を育て、問題解決能力を養う。					
② 一連の学習活動を通して、成就感や達成感を育て、将来の職業に対する意欲を高める。					
3 学 習 内 容					
【1 学期】	1 課題設定と計画の立案 (1) 課題の設定 2 育苗その他資材の準備 (1) 年間計画表の作成 (2) 必要な育苗や資材の準備 (3) 育苗管理 3 予備調査 (1) 課題の内容について詳細な予備調査の実施				3 3 時間
【2 学期】	4 課題の実施・記録 (1) 記録用紙や調査用紙等の作成 (2) テーマに沿っての実施と検証 (3) 自己評価 (4) 栽培管理・記録、計画の見直し 5 調査のまとめ (1) 調査のまとめ (2) 統計処理				5 4 時間
【3 学期】	6 報告書の作成 (1) 報告書の作成 7 発表会の準備 (1) 発表方法に沿った準備 8 発表会 (1) 発表会 (2) 自己評価 (3) 相互評価 (4) 集録の作成 9 主な内容 栽培と野菜の品質向上、野菜の活用と保育・福祉、販売や素材としての野菜に関するもの				1 8 時間
教科書	野菜 (実教)				
副教材	食の検定 3 級テキスト (発行：食の学問体系化研究所) リーダーシップ 日本農業技術検定 傾向と対策 (全国農業高等学校長協会)				
備 考					

評 価 規 準				
評価項目・対象	知識・技術	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学 習 姿 勢	○	○	◎	3 0 %
提 出 物		◎	○	2 0 %
研究レポート	○	◎		2 0 %
成 果 発 表		○	◎	3 0 %
評価の重点	【知識・技術】 野菜を中心とした農産物生産や活用など関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。 基本的な技術を身に付け。計画を立て、技術を活用できるか。 【思考・判断・表現】 テーマ設定に基づき仮設や思考を繰り返し、データや結果をまとめに展開できるか 野菜活用を探究し、協働できたか 【学びに向かう力】 野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。			

教科「農業」

科目名	野菜			単位数	3 単位
学科名	生物生産	学 年	3 学年	予定時数	7 0 時間
1 学習目標					
野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。また、野菜生産の経営に必要な知識を習得させるとともに、野菜をとりまく情勢や経営について理解を深める					
2 指導及び評価の観点					
① 野菜栽培の基本である生育特性を理解しその環境をイメージしたり、病気・害虫の対策を考えらえる					
② 実際の栽培活動を通して興味を引き出し、野菜栽培に対する意欲を高めることができたか					
③ 野菜生産と消費の動向や情勢などをひろく理解できたか					
3 学 習 内 容					
【1学期】	1 野菜の育苗				33 時間
	2 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術				
	3 果実を利用する野菜の栽培				
	4 葉や花茎を利用する野菜の栽培				
【2学期】	5 根を利用する野菜の栽培				54 時間
	6 プロジェクト実施・・・交流活動				
	7 バック栽培と水耕栽培				
【3学期】	8 野菜の流通と経営改善				18 時間
	9 2年間のまとめ				
教科書	野菜（実教）				
副教材	食の検定3級テキスト（発行：食の学問体系化研究所） リーダーシップ 日本農業技術検定 傾向と対策（全国農業高等学校長協会）				
備 考					

評 価 規 準				
評価項目・対象	知識・技術	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学 習 姿 勢	○	○	◎	30%
提 出 物	○	○	◎	10%
研究レポート		◎	○	30%
定 期 考 査	◎	○		30%
評価の重点	<p>【知識・技術】基本的な作業・管理が確実にできるか。 野菜栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。</p> <p>【思考・判断・表現】栽培実習において、行う作業の意味を考え、野菜の生育にとってよりよい方法を選択できるか</p> <p>【学びに向かう力】野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。</p>			

教科「農業」

科目名	生物活用 (野菜)			単位数	2単位
学科名	生物生産	学 年	3 学年	予定時数	70時間
1 学習目標					
農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う					
2 指導及び評価の観点					
園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得させ、それらの生物の特性を活用した活動や療法の特質を理解させるとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。 自分の住んでいる地域において、村おこしや地域の活性化事業等に目を向け、将来それぞれの地域に戻って活動を始めるときに、新しい視点から自分のふるさとを活性化できる材料を見つける。					
3 学 習 内 容					
【1学期】	1 生物活用の意義と役割 (1) 生物の活用とは何か (2) 私たちの暮らしと生物活用 2 植物・園芸と人間生活 (1) 私たちの暮らしと園芸 (2) 植物・園芸がもたらす効用 (3) 植物・園芸の活用				23時間
【2学期】	(3) 地域内の魅力的な活動の学ぶ ①私に暮らす地域自慢再発見 ②農家民宿 ③みはらしファームから地域づくりを考える ④伊那谷自然友の会の活動 ⑤伊那養護学校高等部との交流 ⑥南箕輪村立南部小学校との交流 ⑦その他の活動（農業体験受け入れ、都農交流） 3 野菜・ハーブの栽培と活用 (1) 野菜・ハーブの種類と特性 (2) 野菜・ハーブの栽培 (3) 野菜の加工・利用 (4) コンテナ栽培 (5) キッチンガーデン				33時間
【3学期】	4 生物活用の実際 (1) 交流活動の実施 ①交流活動の実施の流れ ②交流活動のための資源調査 ③対象者の理解 ④活動計画の立案・実施 ⑤活動のまとめ (2) 私たちが期待する地域の生活環境 ①子供たちにとって大切な空間を ②求める自然環境、生活環境③高齢化社会を生きる				14時間
教科書	生物活用 (実教出版)				
副教材	食の検定3級テキスト（発行：食の学問体系化研究所） リーダーシップ				
備考	地域の資料や郷土出版物、先駆者の話など				

評 価 規 準				
評価項目・対象	知識・技術	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学 習 姿 勢	○	○	◎	30%
提 出 物	○	◎		20%
研究レポート		◎	○	20%
定 期 考 査	◎	○		30%
評価の重点	<p>【知識・技術】園芸作物や社会動物の活用の重要性と生物の活用がもたらす人間への効用について興味・関心を持ち、これらの効用と生活の質の向上の関係について探求しようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】園芸作物や社会動物の活用の重要性と生物の活用がもたらす人間への効用等に関する資料や情報等を収集し、適切に選択して活用している。</p> <p>【学びに向かう力】農業・地域が持つ多様な機能や魅力に関心を持ち、調査や企画立案に意欲的に取り組むとともに、生活に関連づけて実践的に取り組もうとする態度を身に付けている。</p>			

